

2001年第47週報告分

- 発生動向総覧／調査票通信
- 全数届出患者数一覧表
- 定点報告疾病集計表
- 疾病別グラフ(四類定点週報告分)
- 疾病マップ(感染性胃腸炎)
- 病原体検出報告(無菌性髄膜炎)
- 年齢階級別累計表
- 保健所別累計表

感染症豆知識

- 関心高まる『炭疽』

東京都結核・感染症発生動向調査企画委員会

事務局:東京都立衛生研究所疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/



(全数情報)

- ・細菌性赤痢が 4 件報告された。推定感染地はインド (ディセンテリー菌)、ベトナム (フレキシネル菌)、フィリピンおよびモンゴル (ソネ菌) である。
- ・腸管出血性大腸菌感染症が 3 件報告された。O157 (VT1+VT2 産生株) 2 件と型別不明 (VT1 産生株) 1 件である。
- ・アメーバ赤痢が 1 件報告された。72 歳男性で、国内での感染が推定されるが、感染経路は不明である。
- ・急性ウイルス性肝炎が 1 件報告された。B 型 (国内、異性間性的接触) である。
- ・HIV 感染症が 3 件報告された。いずれも無症候性キャリアで、推定感染経路は同性間性的接触 1 件、不明 2 件である。
- ・梅毒が 3 件報告された。それぞれ早期顕症梅毒、晩期顕症梅毒、無症候梅毒である。
- ・マラリアが 1 件報告された。三日熱マラリアで、推定感染地はギニア・コートジボアールである。
(推定される感染地は医師の届出によるものです)

(定点情報)

- ・感染性胃腸炎、水痘が増加している。マイコプラズマ肺炎の報告が続き、成人麻疹が再び報告された。

(病原体情報)

- ・化膿性髄膜炎患者のクモ膜擦過物からインフルエンザ菌が検出された。
- ・肺炎患者の咽頭拭い液からRSウイルスが検出されている。
- ・気管支炎患者の咽頭拭い液からアデノウイルスが検出されている。
- ・伝染性紅斑患者の咽頭拭い液からパルボウイルス B19 が、血液からパルボウイルス特異 IgG/IgM 抗体が検出された。
- ・突発性発疹患者の咽頭拭い液からHHV6が検出されている。
- ・無菌性髄膜炎患者 3 名の髄液からエコ - ウイルス 11 型、エコ - ウイルス 25 型、ムンプスウイルスがそれぞれ検出された。
- ・上気道炎、発熱を示した患者 2 名の咽頭拭い液からアデノウイルス 1 型及びアデノウイルス 2 型がそれぞれ分離された。
- ・痙攣を起こした乳児の便からSRSVとエコ - ウイルス 25 型がともに検出された。
- ・ツツガムシ病患者の血液からリケッチア・ツツガムシ特異抗体が検出された。
- ・胃腸炎集団発生 5 事例の患者などの検体 79 件からSRSVが検出されている。
- ・多摩地区の定点から搬入された感染性胃腸炎患者 2 名の糞便からアデノウイルスとロタウイルスがそれぞれ検出された。
- ・南新宿検査・相談室から搬入された血清 188 件中 1 件から梅毒特異抗体が検出された。
- ・保健所から搬入された血清 26 件中 5 件、定点医療機関から搬入された血清 1 件中 1 件、南新宿検査・相談室から搬入された血清 184 件中 46 件からクラミジア・トラコマチス抗体が検出された。

・定点医療機関から搬入された頸管拭い液 9件中 1件からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。

(その他の情報)

・今週のウイルス関連搬入検体は、上・下気道炎によるものが半数で、脳炎・髄膜炎によるものがそれに続く。

調査票通信

定点医療機関からのコメントを掲載

練馬

・近所の保育園 0歳児クラスで感染性胃腸炎が多発しています。

狛江調布

・感冒（嘔吐、下痢を伴うもの、発熱、咳嗽等）の流行がみられる。

・水痘 3歳男児、父の帯状疱疹より感染。

全数届出患者数一覧表 2001年47週

分類	疾病名	東京都分(報告週)				全国分(診断週)
		44週	45週	46週	47週	47週
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	ペスト					
	マ・ルブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	コレラ					1
	細菌性赤痢	1	1	3	4	6
	腸チフス	1	1			
	パラチフス		1			
	急性灰白髄炎					
	ジフテリア					
三類	腸管出血性大腸菌感染症			2	3	13
四類 (全数届出)	アメ - バ赤痢	2	3	4	1	5
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病					
	回歸熱					
	ウイルス性肝炎(急性肝炎)	2	3	1	1	2
	Q熱					
	狂犬病					
	クリプトスポリジウム症					1
	クロイツフェルト・ヤコブ病					4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					
	後天性免疫不全症候群	9	7	9	3	4
	コクシジオイデス症					
	ジアルジア症		2			
	腎症候性出血熱					
	髄膜炎菌性髄膜炎					
	先天性風疹症候群					
	炭疽					
	ツツガムシ病			1		13
	デング熱					
	日本紅斑熱					2
	日本脳炎					
	乳児ボツリヌス症					
	梅毒	1		1	3	2
	破傷風					
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1
	ハンタウイルス肺症候群					
Bウイルス病						
ブルセラ症						
発疹チフス						
マラリア		1	1	1	2	
ライム病						
レジオネラ症	2				1	

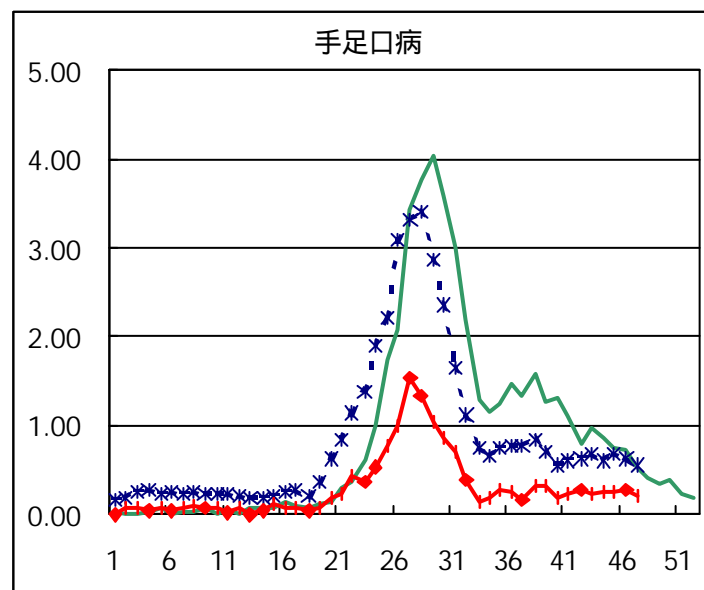
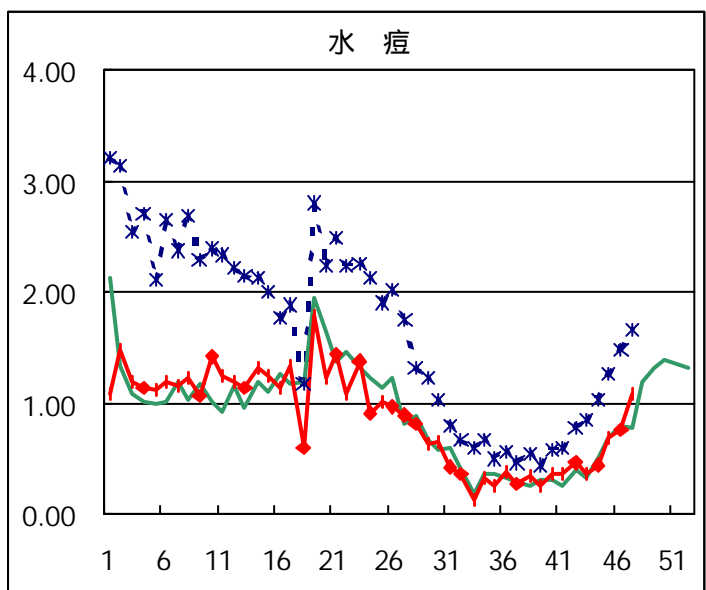
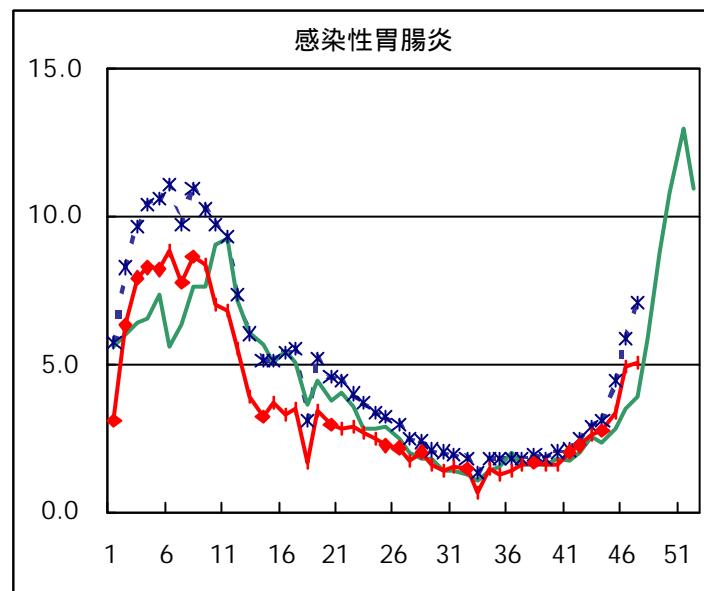
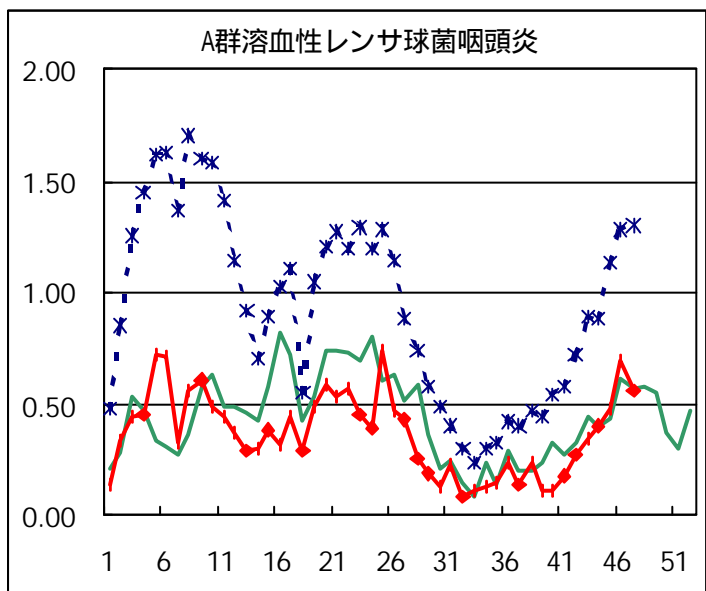
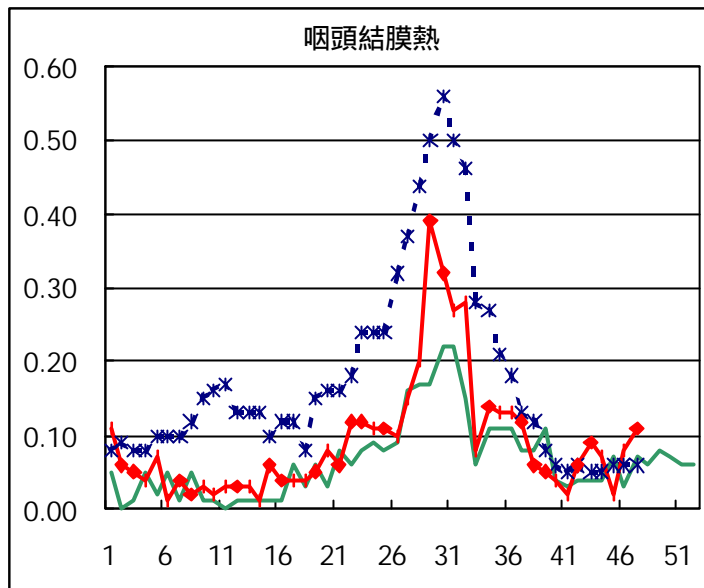
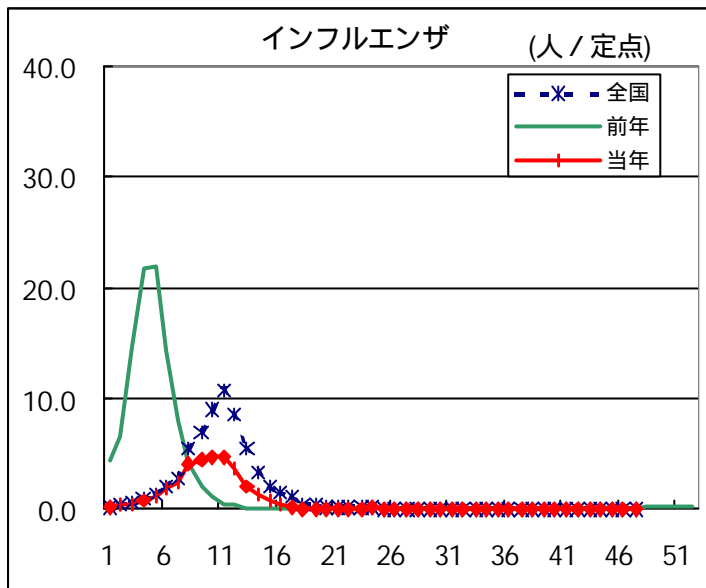
東京都分の集計は、医師からの追加届出により増加することがあります(2001/11/28集計)

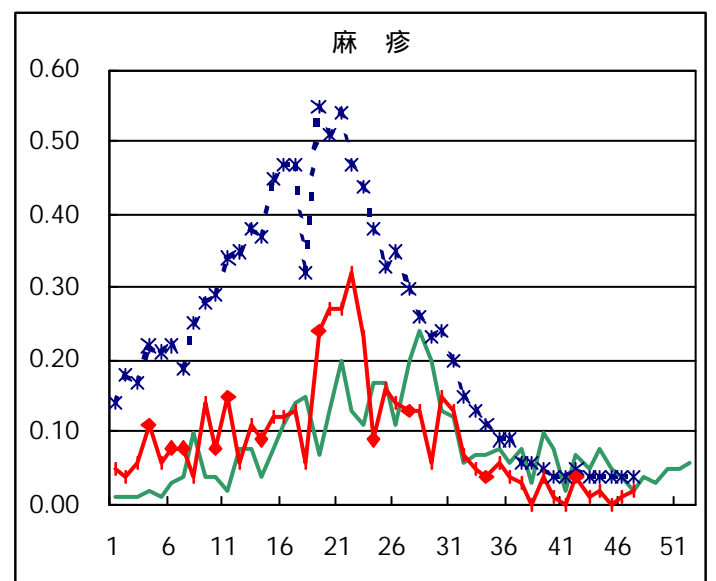
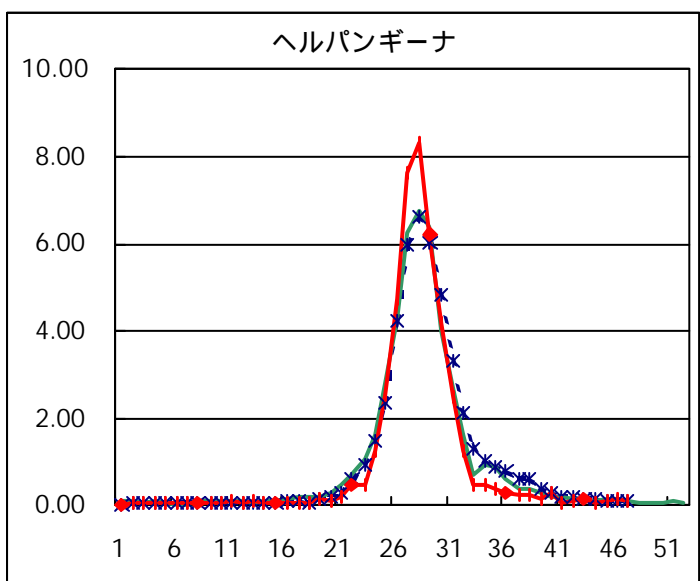
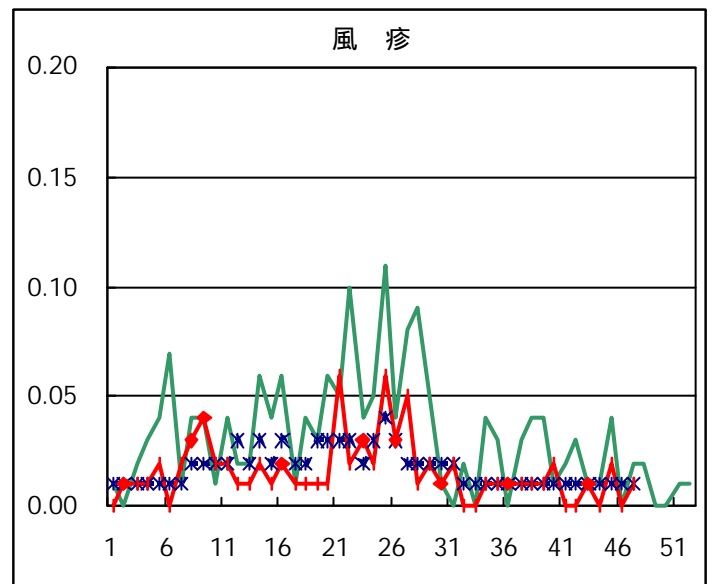
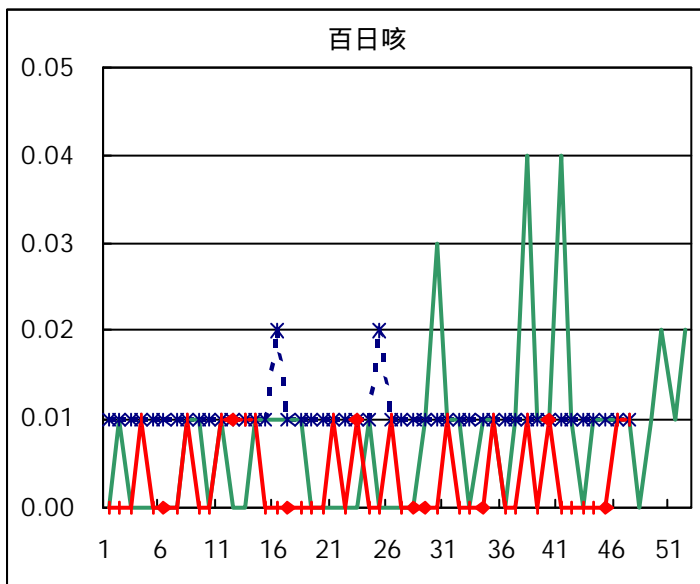
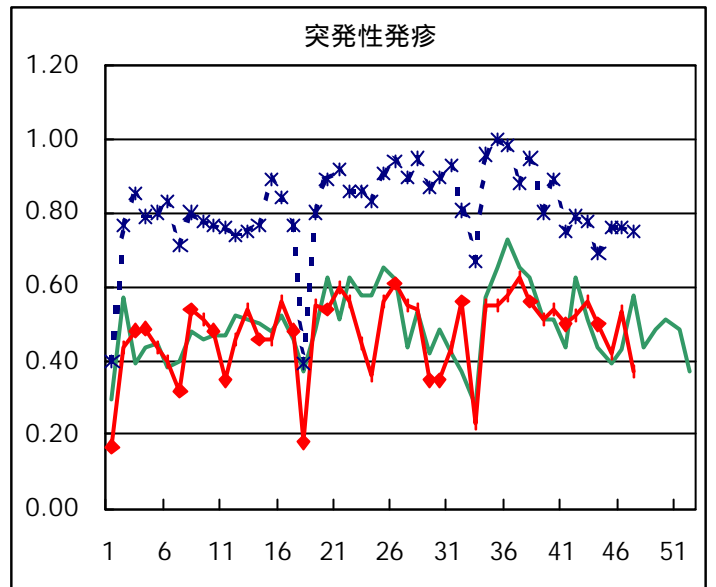
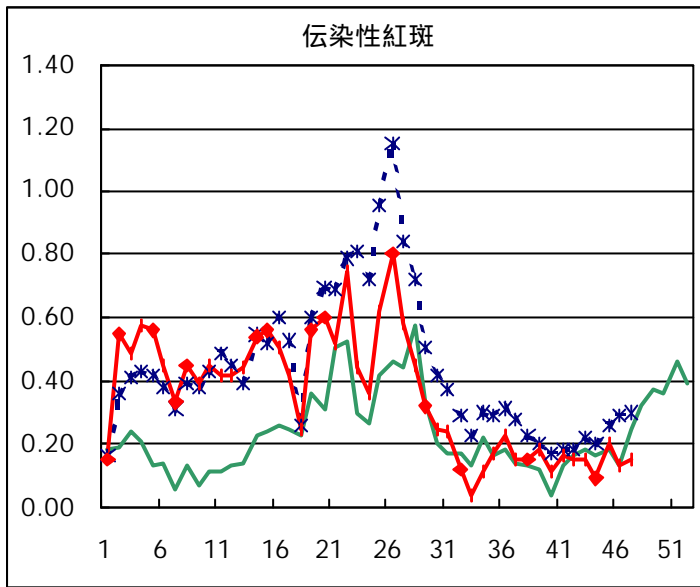
定点報告疾病集計表（男女別）

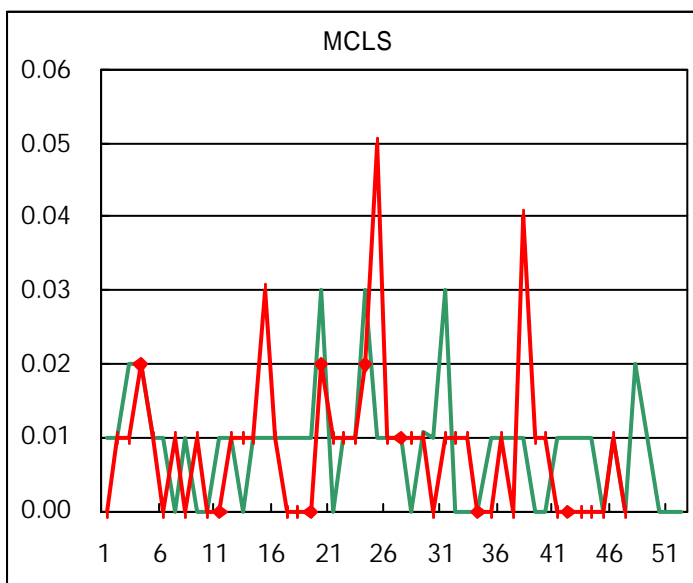
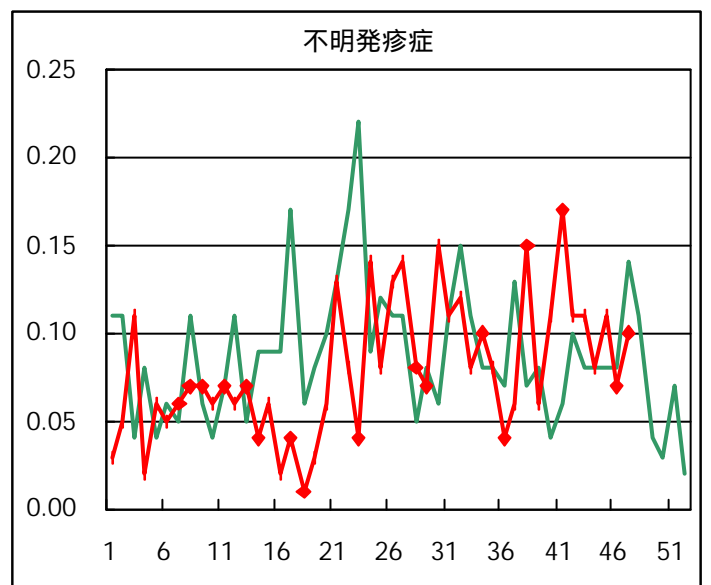
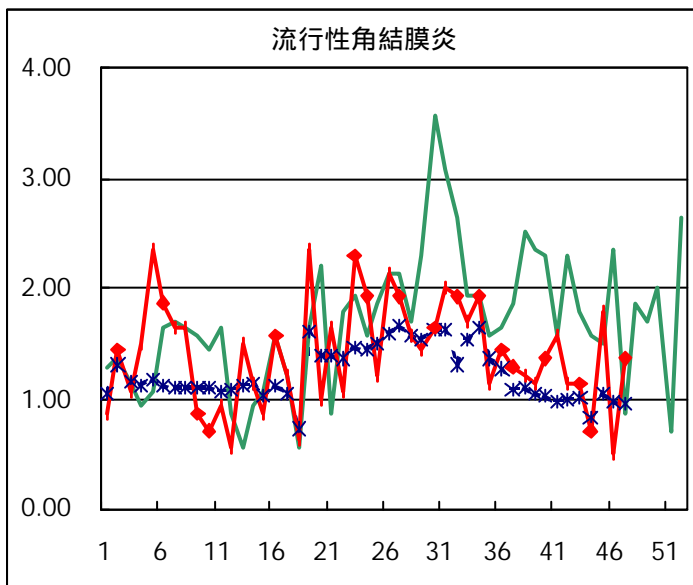
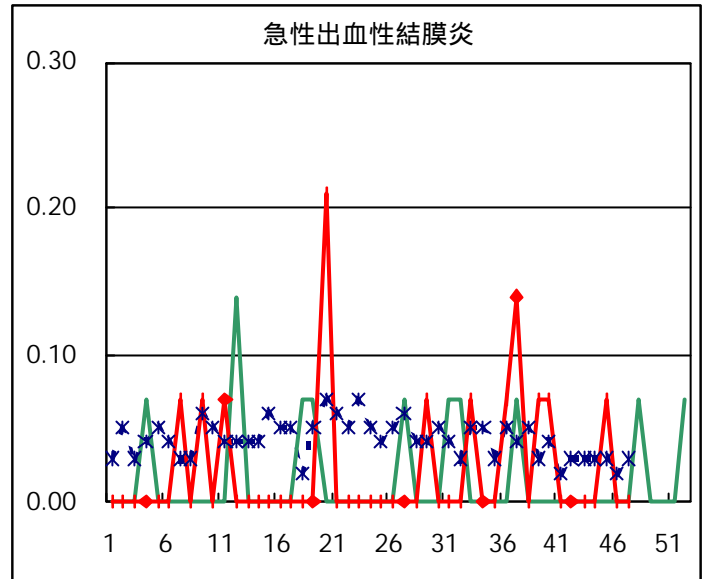
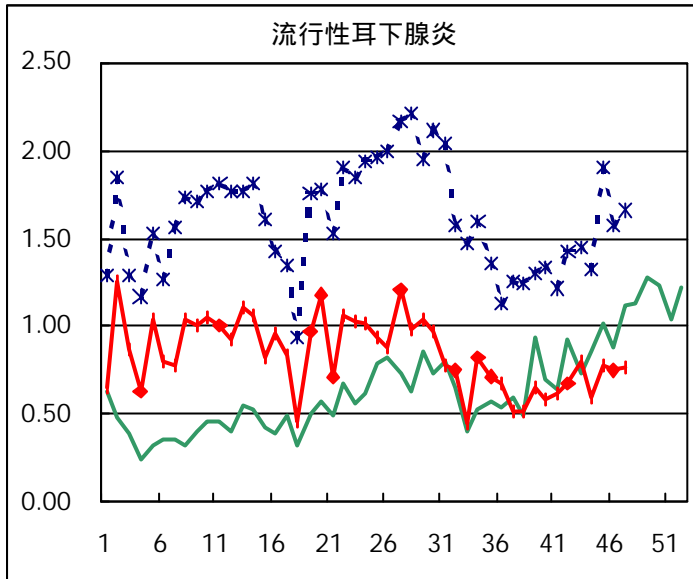
疾病名	性	2001年 週				累計
		44	45	46	47	
インフルエンザ	男	2	4	3	3	12
	女	1	1	4	5	11
咽頭結膜熱	男	7	3	7	6	23
	女	3		5	9	17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	27	32	51	50	160
	女	30	36	47	30	143
感染性胃腸炎	男	183	245	374	375	1177
	女	209	230	327	342	1108
水痘	男	36	58	57	86	237
	女	27	40	52	68	187
手足口病	男	23	15	24	17	79
	女	14	21	17	13	65
伝染性紅斑	男	8	15	6	14	43
	女	5	14	12	8	39
突発性発疹	男	38	34	37	23	132
	女	33	26	38	30	127
百日咳	男			1		1
	女				2	2
風疹	男		1			1
	女		2		2	4
ヘルパンギーナ	男	6	6	9	9	30
	女	2	4	10	6	22
麻疹(成人以外)	男	1				1
	女	2		2	3	7
流行性耳下腺炎	男	36	60	54	59	209
	女	48	50	52	49	199
不明発疹症	男	7	9	6	5	27
	女	4	6	4	9	23
M C L S	男			1		1
	女			1		1
急性出血性結膜炎	男					
	女		1			1
流行性角結膜炎	男	4	11	5	13	33
	女	6	14	2	6	28
急性脳炎（日本脳炎を除く）	男					
	女					
細菌性髄膜炎	男					
	女				1	1
無菌性髄膜炎	男		1			1
	女		1			1
マイコプラズマ肺炎	男	2	2	1		5
	女	1	1	2	3	7
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	男					
	女					
成人麻疹	男				1	1
	女					

「累計」欄は、当週を含む過去4週分の合計を示したものです。空欄は、報告がなかったことを示しています。

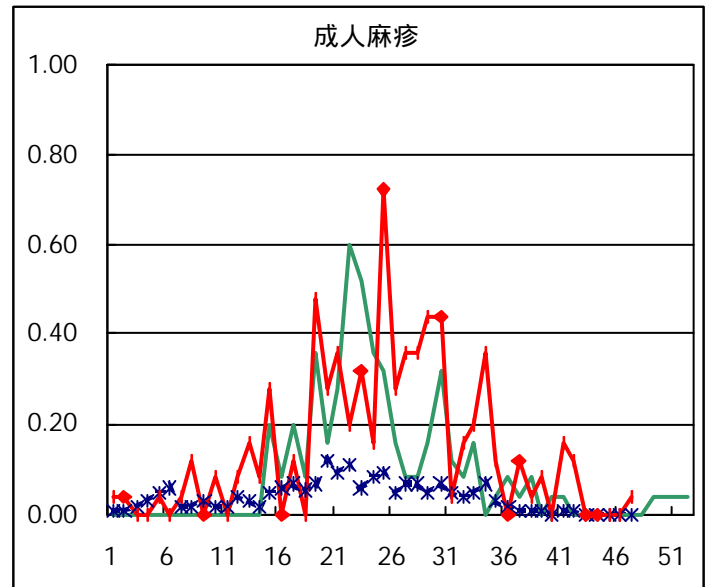
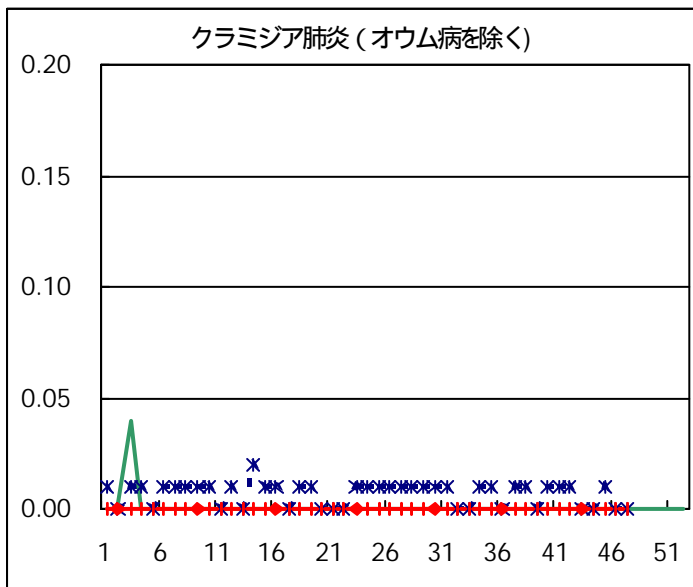
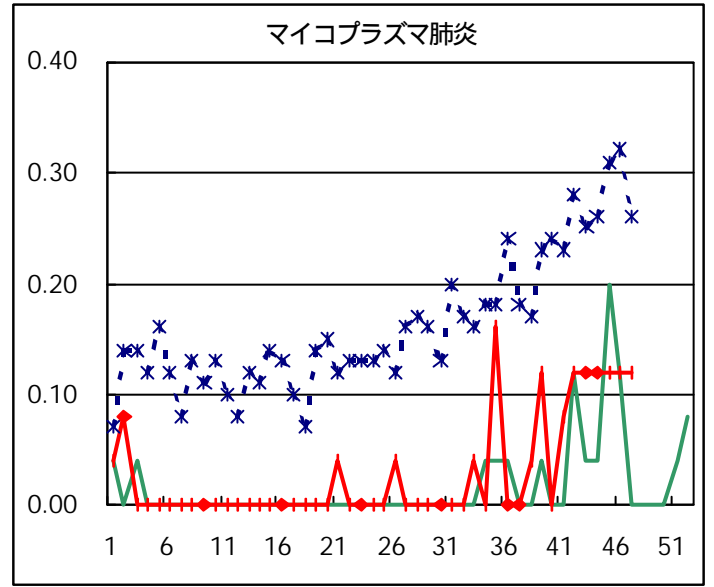
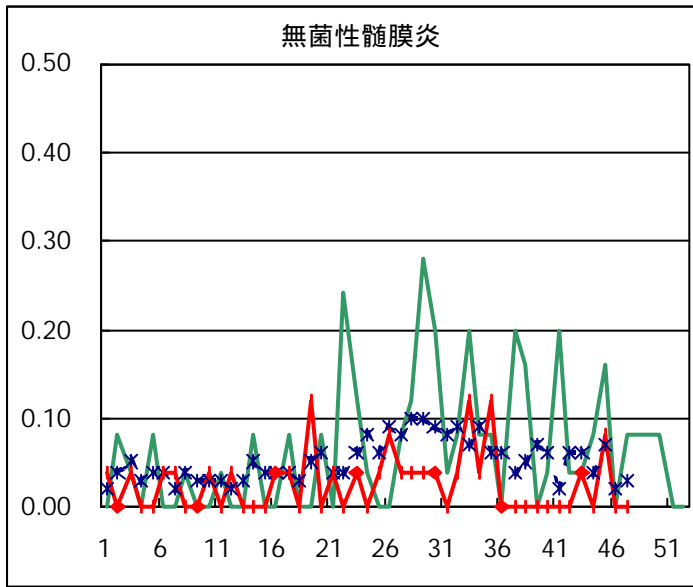
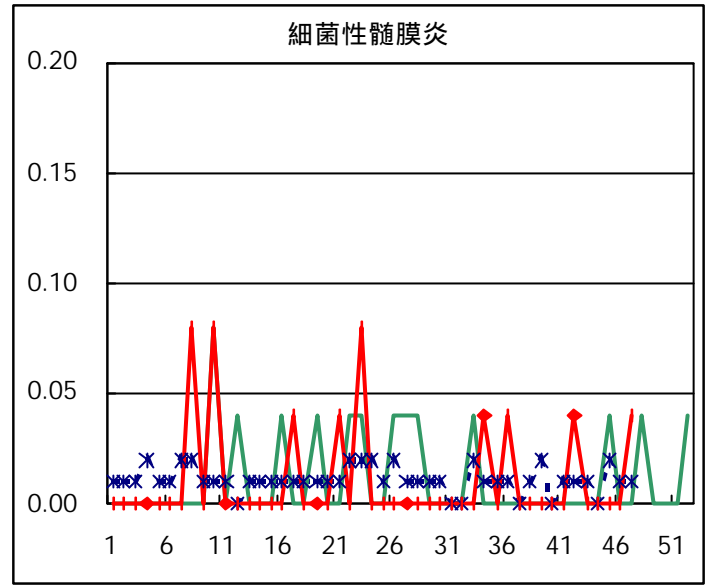
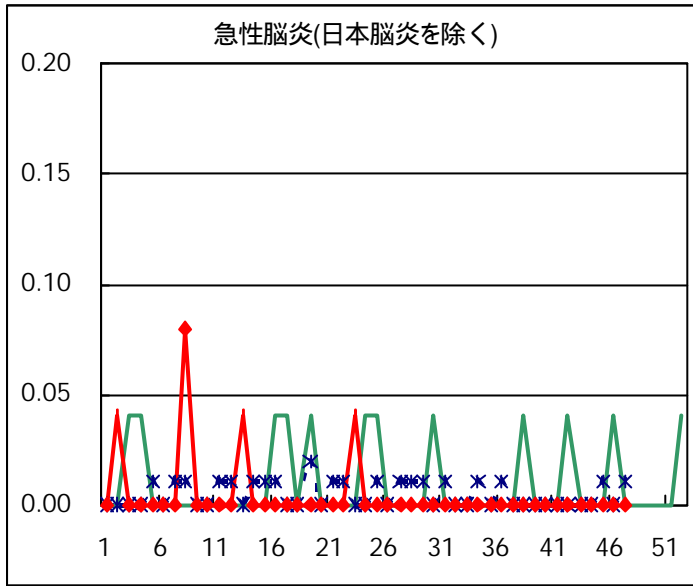
疾病別グラフ (四類定点週報告分)





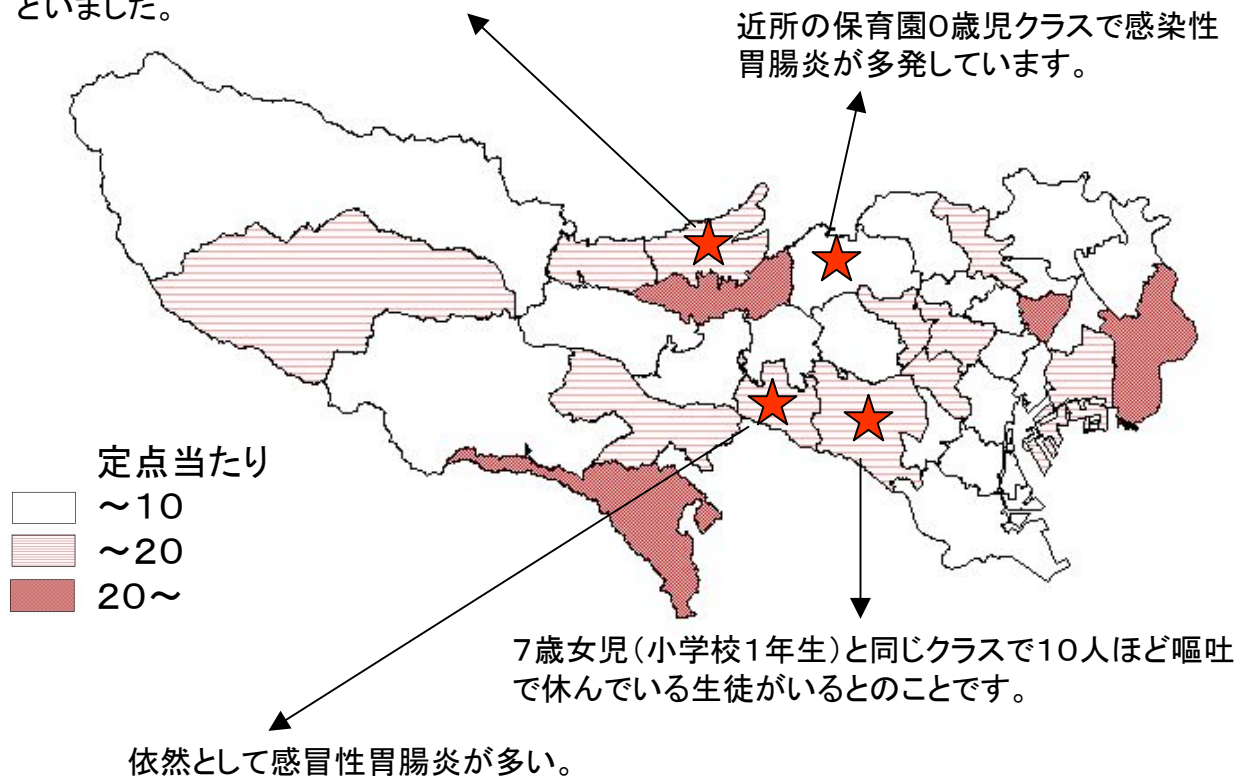


疾病別の定点医療機関数	
疾 病	医療機関数
インフルエンザ	178
急性出血性結膜炎	14
流行性角結膜炎	
急性脳炎	25
細菌性髄膜炎	
無菌性髄膜炎	
マイコプラズマ肺炎	
クラミジア肺炎	
成人麻疹	142
上記を除く疾病	



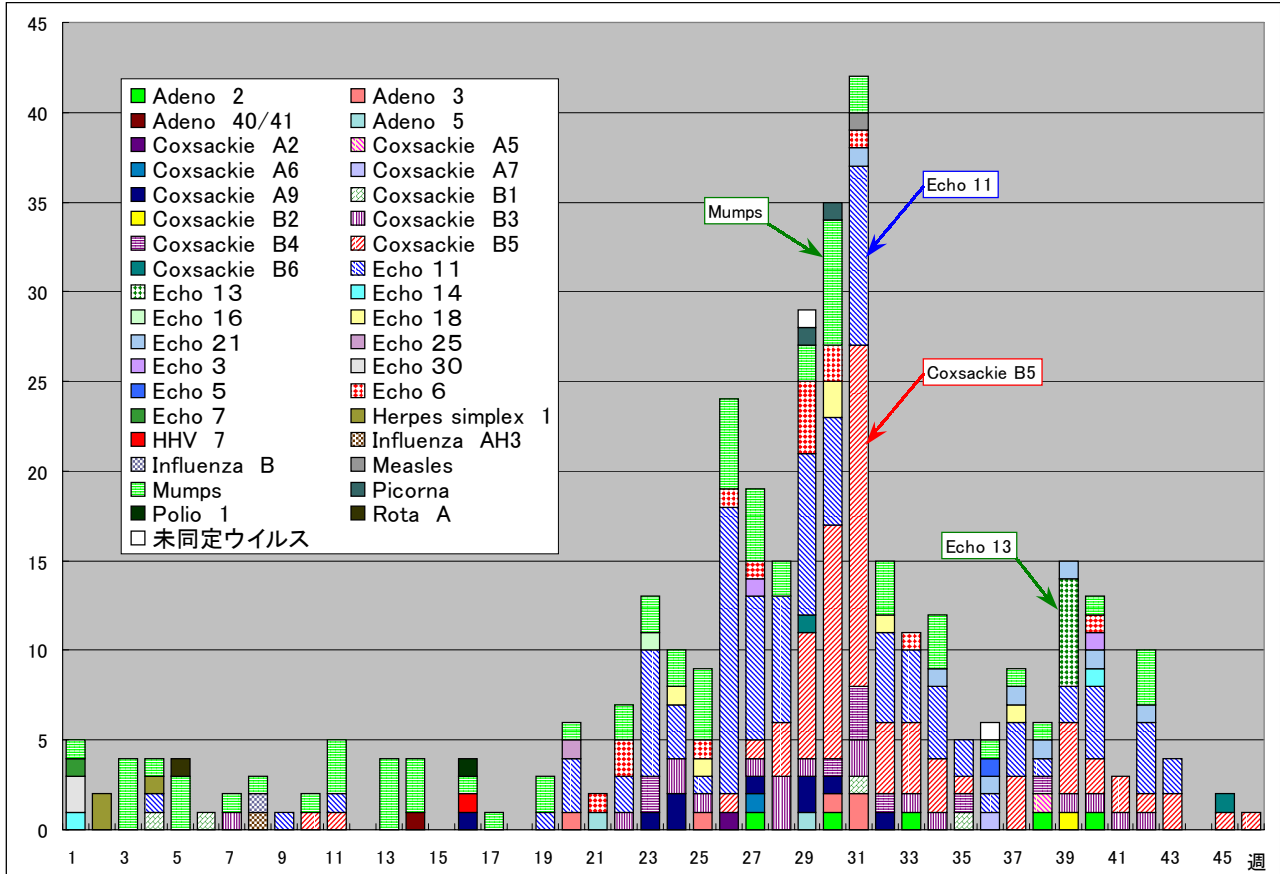
東京都における感染性胃腸炎発生状況 (46週・47週の調査票通信より)

感染性胃腸炎患者のうち腹痛(心窩部痛)と嘔吐、発熱で一日で自然におさまる患者が5人ほどいました。

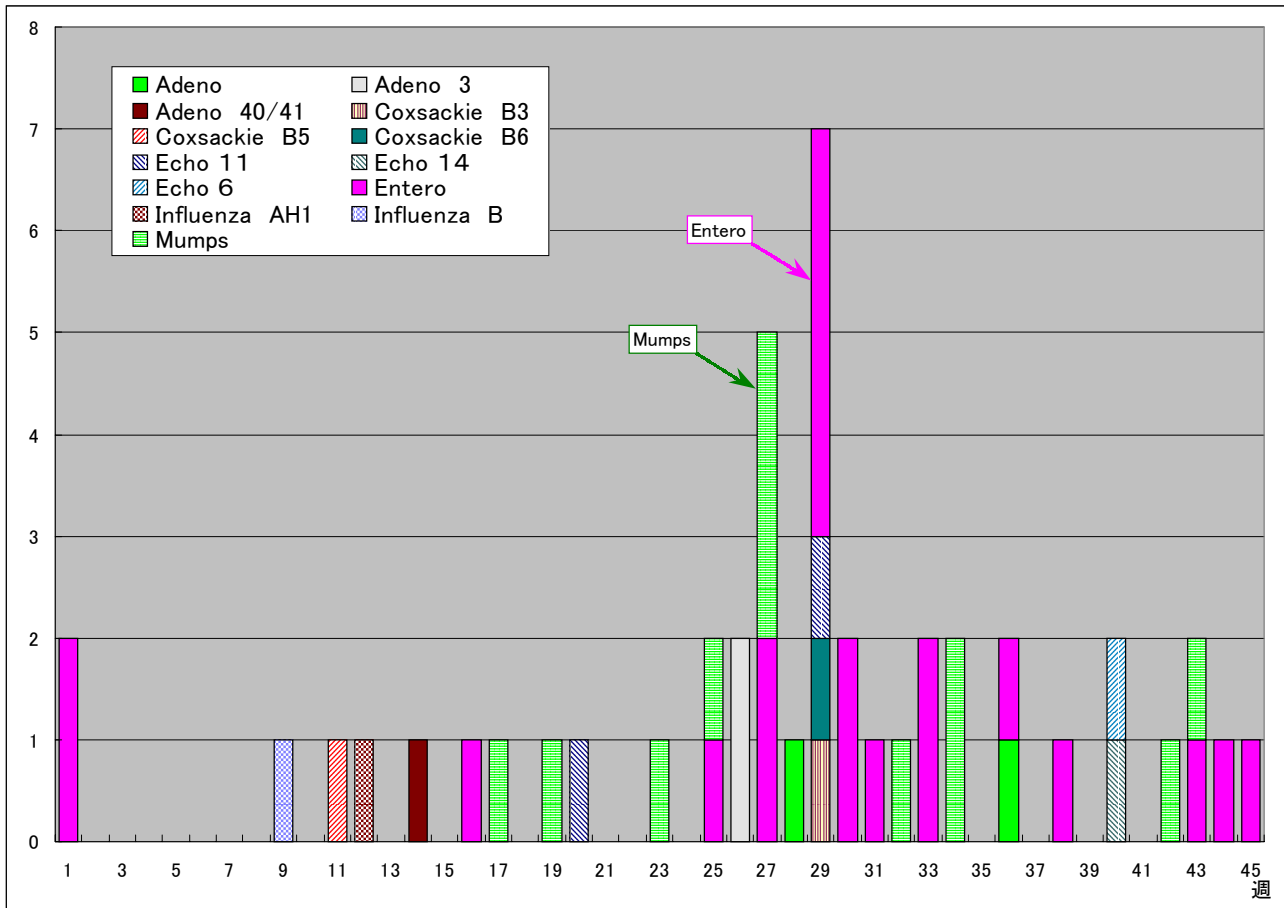


病原体検出報告（無菌性髄膜炎）

無菌性髄膜炎患者から検出されたウイルス（全国報告数<個票および速報から集計>）



無菌性髄膜炎患者から検出されたウイルス（東京都）



搬入検体数: 117件(ウイルス研究科)

年齢階級別累計表(2001年 47週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	M C L S
～6ヶ月		1		9	2			7								1	
～1歳		1	1	46	10	1	1	24	1		2		1			1	
1歳		3	1	88	24	8	4	21			2		3			8	
2歳		4	1	76	17	7	2	1					7			2	
3歳		3	8	72	31	3	3				3	1	19				
4歳	1	1	7	78	27	4	4		1			1	23				
5歳			15	77	19	2	3				2	1	17		1	1	
6歳			13	50	6	1	2				1		10				
7歳		1	18	38	5	1	1				1		5				
8歳	1		11	28	2	2	2						5				
9歳			2	16	1						1		3				
10～14歳	2	1	2	41	4						1		8				
15～19歳	1			8	2								3			1	
20～29歳	1		1	90	4	1				2	2		4		6		
30～39歳	1														5		
40～49歳	1														3		
50～59歳															2		
60～69歳															1		
70～79歳															1		
80歳以上																	
合計	8	15	80	717	154	30	22	53	2	2	15	3	108	0	19	14	0
先週比	1	3	-18	16	45	-11	4	-22	1	2	-4	1	2	0	12	4	-2

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。

眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別累計表 (2001年47週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
中央	2			1	2		1									1		7
世田谷				48	20	2	1	1	1			1	7					81
渋谷区	1			44	8	3		2					4					62
池袋	1			1		1					1				3			7
長崎				3	1		1						1					6
荒川				6	4										2			12
足立			2	22	4		1	1			1		1					32
葛飾			2	16	8		5	5			1		3			1		41
江戸川			31	51	7	4	2	1			1		15			1		113
台東	1	3	5	32	8	2	1	2			2		2					58
目黒区			5	17	2	2							4			1		31
大田区			2	31	16	1	1	4	1		3		1		2	3		65
杉並				14	1	3							6					24
北区			9	26	6	3	1	6			1	1	4					57
板橋区				15	1	2		1		2			1					22
みなと				7	1		1						4		4			17
中野区			1	41	6		4	2					2					56
新宿区				34	7							1	2		4	2		50
品川区		2	1	29	2			4					3			1		42
千代田				4	2													6
練馬区			3	19	3	1		4					4					34
文京				14	3			1							2			20
墨田区		8	1	2	1	2		1					2					17
江東区		1	4	21	11	1							3					41

保健所別累計表 (2001年47週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
八王子			1	7	4			3										15
町田			1	31	1			3					5			2		43
島しょ			1		1						1		1			2		6
多摩川				22	5		1	4					5					37
秋川			2	21	3			1					5					32
南多摩			1	21	4	2	1	1			4		5					39
多摩立川			3	6	3													12
村山大和				13	1			1					1		2			18
府中小金井			1	9	1		1						3					15
狛江調布		1		27	1	1		1					5					36
三鷹武蔵野			1	4	2								1					8
多摩小平	1		1	37	1			3					6					49
多摩東村山	2		2	21	3			1					2					31

東京都合計	8	15	80	717	154	30	22	53	2	2	15	3	108	-	19	14	-	1242
定点当り報告数	0.04	0.11	0.56	5.05	1.08	0.21	0.15	0.37	0.01	0.01	0.11	0.02	0.76	-	1.36	0.10	-	

関心高まる『炭疽』

東京都医師会感染症予防検討委員会

炭疽は炭疽菌による細菌感染症で、感染症法では四類全数把握疾患である。人の感染のほとんどは、感染動物やその加工品との接触（皮膚炭疽）によるが、まれに大気中の芽胞の吸入（肺炭疽）や、汚染食肉や水からの感染（腸炭疽）がある。人から人への感染はなく、抗菌薬が有効なことが多いが、放置すると急性敗血症で致死的になる。

炭疽菌は世界各地の土壌に存在し、培養が容易で、芽胞になると乾燥や消毒に耐性があり、生物テロに用いられる危険性の高い細菌である。テロでは直接的な殺傷と同時に大きな不安を社会に呼び起こす可能性を持つ。

皮膚炭疽の多くは皮膚露出部に起こる。無痛性の丘疹から始まり、数日で潰瘍を形成し、周囲に水泡が生じる。中心部は特徴的な黒褐色の壊死性痂皮（炭疽癰）を伴う。80%は10日程度で治癒する。

肺炭疽の初期症状は発熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感のため、早期診断が不可能な場合が多い。典型的には2～4日後に症状が一時的に軽快するも、突然、呼吸不全、ショックを呈し、ほぼ全例が24時間以内に死亡する。

腸炭疽は吐気、嘔吐、激しい腹痛から消化管出血、出血性腹水、敗血症を来す。肺炭疽の潜伏期は1～60日、皮膚、腸炭疽は1～7日である。

炭疽の診断は、病巣組織や血液からグラム染色（グラム陽性桿菌）や莢膜染色を行う。菌の分離・同定の他、遺伝子検査などで確認する。治療にはペニシリン、テトラサイクリン、ニューキノロン等の抗菌薬が有効である。発症予防には、同じ抗菌薬が有効と考えられている。

（文責・堀江 徹）